

近世道頓堀関係史料―遠藤亮平・安井洋一氏所蔵文書―の紹介

八木 滋

はじめに

大阪歴史博物館に所蔵されている「南組惣年寄安井家文書」（大坂関係の史料は、大阪市史料第二十輯『安井家文書』大阪市史編纂所 一九八七年、に翻刻されている。）は、道頓堀の開発に携わり、大坂三郷南組惣年寄をつとめた安井家に残された史料群である。いわゆる「道頓堀裁判」で安井家から証拠として提出された史料も含まれており、これまで一七世紀の大坂の都市社会の様子をうかがい知ることのできる数少ない史料群の一つとしてさまざまに利用されてきた。この「安井家文書」と伝来を同じくすると考えられる史料群（遠藤亮平氏・安井洋一氏所蔵、現在は大阪歴史博物館に寄託）が発見された。

すでに、その内容の一端は、大阪歴史博物館特集展示「新発見史料からみる江戸時代の道頓堀」（二〇一三年一月六日～二月一六日、担当学芸員 西本菜穂子・八木滋）や八木滋「新しく発見された道頓堀関係史料について」（『ヒストリア』二四五号 大阪歴史学会 二〇一四年八月）で紹介したところである。また、同史料群を使った研究としては、八木滋「近

世前期道頓堀の開発過程―新出文書の検討から―」（『大阪歴史博物館研究紀要』一二二―二〇一四年二月）、同「一七世紀大坂道頓堀の開発と芝居地」（塚田孝・佐賀朝・八木滋編『近世身分社会の比較史』清文堂出版 二〇一四年三月）、木上由梨佳「近世大坂芝居地の社会構造―道頓堀開発と芸能興行の展開―」（『都市文化研究』一六 大阪市立大学都市文化研究センター 二〇一四年三月）がある。

いずれも、展示・論文という性格上の問題や紙幅の関係から、史料群の目録等を掲載することができず、内心忸怩たる思いがあった。そこで、本稿では、この新しく発見された史料群について、史料目録を提示することを主眼とし、前掲八木「新しく発見された道頓堀関係史料について」と重複する部分が多いが、改めて史料発見の経緯とその概要について触れておきたい。

なお、本稿では、便宜的に大阪歴史博物館所蔵の「安井家文書」は「安井家文書」、今回発見された遠藤亮平・安井洋一氏所蔵文書は「新発見史料」と表記する。

発見の経緯

二〇一一年二月初めに、静岡県袋井市在住の遠藤亮平氏から、人を介して「安井道頓」に関する古文書が家にあるとの連絡があった。静岡県に安井道頓の関係史料があるということには、いささかいぶかしく思ったが、早速遠藤氏に連絡を取った。遠藤氏によると、知人の専門家が文書リストを作成したということで、それを送っていただいた。リストを一瞥して驚愕した。一七世紀の道頓堀各町の水帳や絵図などがずらりとリストに並んでいたからである。早速、遠藤氏にその古文書を直接拝見したいとお願いした。

二〇一二年一月八日に、大阪市立大学教授の塚田孝氏とともに、遠藤氏のお宅にお邪魔した。現物の古文書は、蜜柑の段ボール箱に封筒に入れて整理されており、リスト通りの近世大坂に関する史料群であることを確認した。

古文書は、その後同年三月末に大阪歴史博物館に寄託された。

史料の内容

史料群は全部で二四二件である。二四二件の目録を【表】として、本文末尾に掲げておいた。以下、カッコ内の数字は【表】の文書番号である。史料群の大半は大坂関係のものである。囲碁の安井家（後述）に関するものが数点（確実に囲碁関係のものは、139・143・145・154・156・157）含まれている。

年代が記されている史料のうち、最古のものは元和四年（一六一八）九月二八日付の「えびす嶋町屋敷遺候事」（142）である。囲碁安井家の関係の史料は明治一九〜三五年頃のものである。それを除くと一番新しいも

のは慶応三年（一八六七）四月二八日付の「乍恐口上」（104）と「漢詩」（140）である。大坂関係の史料の多くは、安井九兵衛が作成したものか、宛名になっている。

年代が記されている史料のうち、一七世紀のものが一三点ある。推定も含めるとさらに多くなり、全体の約半数が一七世紀の大坂関係史料であるということが出来る。その中でも、元和七・九年（一六二一・三）および明暦元年（一六五五）・延宝七年（一六七九）・元禄七年（一六九四）の道頓堀各町の水帳・土地台帳（絵図も含む）が多数含まれていることは特筆される。「安井家文書」の中の水帳関係の史料は、明暦元年の裏町水帳写と延宝七年二月の吉左衛門町水帳絵図の二点のみであるのとは対照的である。

関連の絵図類もある。この中では、明暦元年の「道頓堀川大絵図」（60）が目される。「安井家文書」のなかの寛文一〇年（一六七〇）十一月五日の安井九兵衛の由緒書付覚（前掲『安井家文書』）では、開発の由緒を持つ道頓堀川沿いの組合八町について、明暦元年の水帳作成の際に「道頓堀大絵図茂壹枚二仕差上ケ申候」と記している。今回新たに発見された「道頓堀川大絵図」は、この町奉行所に提出された絵図の写（控）であると考えられる。

その他、内容の詳細については、前掲の史料紹介や論文を参照されたい。

史料の伝来

ここまで見てきたことを合わせて考えると、「新発見史料」は、大坂三郷南組惣年寄安井家に伝来したもので、「安井家文書」ともは同一の史料群であったことは確実である。なお、内容の偏りや傾向はあるものの、「安井

家文書」と「新発見史料」との間には内容的な明確な区分はないように見受けられる。同種の史料が双方に含まれる場合もあり、史料群が分かれた際に、何がしかの意図はあったかもしれないが、分類分けといったようなことは行われなかったものと推測される。

「新発見史料」は、遠藤亮平氏のご母堂である園子さん(故人)が大切に保管されていたもので、子息の亮平氏に引き継がれたものだという。園子さんは、囲碁の四棋家の一つ安井家十一世安井昌三氏の次女である。一月の遠藤氏宅訪問の際には、亮平氏の従兄弟にあたる安井洋一氏(安井家十三世、園子さんの弟の二世安井三郎氏の子息)も同席された。この囲碁の家元である安井家の初世安井算哲(一五九〇—一六五二)は、道頓堀川開削者の一人で、南組惣年寄をつとめた安井九兵衛(道卜)の甥にあたる。すなわち、大阪の安井家と遠縁に当たりますが、はるか四百年前に家は分かれている。初めは京都に本拠を構えていたが、のちに江戸(東京)に移った。したがって、今回発見された古文書が囲碁の安井家に代々伝来したものは考えられない。亮平氏によると、この古文書をなぜ園子さんが所持していたのかは聞かされていないという。

前述のように、「新発見史料」には、少なくとも明治三〇年代後半までは大阪の安井家にあつたものと考えられる。それが、なぜ囲碁(東京)の安井家の手に渡つたのであろうか。直接手渡されたものなのであろうか。『大阪市史』編纂に利用された史料の大半が「新発見史料」に含まれる。このことは、『大阪市史』編纂過程で何らかの事情が生じて、東京の安井家に渡された可能性を示唆するものとも考えられる。だが、現段階では推測の域を出ない。

また、151は明治期に大阪の安井家に伝来した文書が分類・整理され

たときの「仮目録」と考えられ、文書がまとめて入っていた袋などにその整理番号が記されている場合がある。安井家に伝来した古文書は、明治期に一定の整理がなされたことは明らかである。この整理の過程も含めて、二つ(もしくはそれ以上)に分かれた伝来過程を丁寧に解明していくことは、今後の大きな課題である。

おわりに

以上のように、「新発見史料」は、一七世紀の大坂の都市社会を知るうえでたいへん重要な史料群であることは言をまたないところである。正直なところ、「安井家文書」と伝来を同じくする史料がこれほど残っていたことは、それだけでたいへんな驚きであった。これまで道頓堀の開発過程を中心に基礎的な検討が進められてきたが、今後はさらに様々な角度から検討が加えられ、江戸時代前期・中期の大坂の都市史研究全体に資することが期待される。

末尾ながら、同史料群の調査・研究にご理解をいただいている所蔵者の遠藤亮平氏・安井洋一氏ならびに適切な整理と保存措置を講じられた関係諸氏に改めて深甚の謝意と敬意を表する次第である。

【表】

No.	表題	年代	差出人	宛名	形態	個数	備考
1	道頓堀宗右衛門町水帳	元禄7年10月	年寄大和屋八右衛門(印)ほか2人	伴藤右衛門他3人	堅	1	平野次郎兵衛・安井九兵衛連署
2	道頓堀久左衛門町水帳之写	延宝7年12月7日	年寄河内屋人右衛門(印)ほか2人	牧野平左衛門他3人	堅	1	水帳絵図あり、平野次郎兵衛・安井九兵衛連印
3	道頓堀九郎右衛門町水帳	元禄7年10月	年寄難波屋善兵衛(印)ほか2人	伴藤右衛門他3人	堅	1	平野次郎兵衛・安井九兵衛連署
4	道頓堀御前町水帳	元禄7年10月	年寄松本市郎兵衛(印)ほか2人	伴藤右衛門他3人	堅	1	平野次郎兵衛・安井九兵衛連署
5	道頓堀湊町水帳	元禄7年10月	年寄平野屋三右衛門(印)ほか1人	伴藤右衛門他3人	堅	1	平野次郎兵衛・安井九兵衛連署
6	道頓堀吉左衛門町水帳	元禄7年10月	年寄竹田外記(印)ほか1人	伴藤右衛門他3人	堅	1	平野次郎兵衛・安井九兵衛連署
7	道頓堀立慶町水帳	元禄7年10月	年寄木屋清兵衛(印)ほか2人	伴藤右衛門他3人	堅	1	平野次郎兵衛・安井九兵衛連署
8	道頓堀布袋町水帳	延宝7年9月11日	年寄木屋清兵衛(印)ほか2人	牧野平左衛門他3人	堅	1	平野次郎兵衛・安井九兵衛連印
9	道頓堀吉左衛門町水帳之写	延宝7年12月7日	年寄堺屋吉左衛門(印)ほか1人	牧野平左衛門他3人	堅	1	平野次郎兵衛・安井九兵衛連印
10	道頓堀久左衛門町水帳	元禄7年10月	年寄播磨屋久左衛門(印)ほか2人	伴藤右衛門他3人	堅	1	平野次郎兵衛・安井九兵衛連署
11	道頓堀宗右衛門町水帳之写	延宝7年9月11日	年寄山口屋宗右衛門(印)ほか2人	牧野平左衛門他3人	堅	1	水帳絵図あり、平野次郎兵衛・安井九兵衛連印
13	道頓堀御前町水帳之写	延宝7年9月13日	年寄松本市郎兵衛(印)ほか2人	牧野平左衛門他3人	堅	1	水帳絵図あり、平野次郎兵衛・安井九兵衛連印
14	道頓堀立慶町水帳之写	延宝7年12月7日	年寄錦屋市左衛門(印)ほか2人	牧野平左衛門他3人	堅	1	水帳絵図あり、平野次郎兵衛・安井九兵衛連印
15	道頓堀立慶町水帳之写 請所換地帳	延宝5年11月9日	青山大膳亮内換地惣奉行山口二郎右衛門ほか8人		堅	1	案内安井九兵衛・平野次郎兵衛
16	揖州西成郡大坂道頓堀堀川側安井九兵衛・平野二郎兵衛 請所換地帳	延宝5年11月9日	青山大膳亮内換地惣奉行山口二郎右衛門(印)ほか8人		堅	1	案内安井九兵衛・平野次郎兵衛連印
17	道頓堀川屋敷	元和7年9月晦日	井上藤右衛門ほか3人	加部金右衛門他3人	堅	1	袋(道頓堀公儀明屋敷御降地帳)入り
18	道頓堀立慶町水帳之写	明暦元年5月28日	年寄立慶(印)ほか2人	加部金右衛門他3人	堅	1	17に同封、水帳絵図あり、平野徳寿・安井道卜連印
19	道頓堀やしき間敷之帳	元和9年			堅	1	17に同封
20	道頓堀木津組水帳之写	明暦元年5月28日	月行事平太三左衛門(印)ほか1人	加部金右衛門他3人	堅	1	17に同封、平野徳寿・安井道卜連印
21	道頓堀九郎右衛門町水帳之写	明暦元年5月28日	年寄九郎右衛門(印)ほか2人	加部金右衛門他3人	堅	1	17に同封、水帳絵図あり、平野徳寿・安井道卜連印
22	道頓堀裏町水帳之写	明暦元年5月28日	年寄山口屋宗右衛門(印)ほか2人	加部金右衛門他3人	堅	1	17に同封、平野徳寿・安井道卜連印
23	道頓堀宗右衛門町水帳之写	明暦元年5月28日	年寄山口宗右衛門(印)ほか2人	加部金右衛門他3人	堅	1	17に同封、平野徳寿・安井道卜連印
24	道頓堀久左衛門町水帳之写	明暦元年5月28日	年寄播磨屋久左衛門(印)ほか2人	加部金右衛門他3人	堅	1	17に同封、平野徳寿・安井道卜連印
25	道頓堀新茂町水帳之写	明暦元年5月28日	年寄安井九兵衛(印)ほか2人	加部金右衛門他3人	堅	1	17に同封、水帳絵図あり
-①	(うなぎ町筋絵図)				絵図	1	25に挟み込み
26	道頓堀吉左衛門町水帳之写	明暦元年5月28日	年寄堺屋吉左衛門(印)ほか2人	加部金右衛門他3人	堅	1	17に同封、水帳絵図あり、平野徳寿・安井道卜連印
27	道頓堀陣屋敷水帳之写	明暦元年5月28日	年寄安井九兵衛(印)	加部金右衛門他3人	堅	1	17に同封、水帳絵図あり
28	道頓堀大和町水帳之写	明暦元年5月28日	年寄安井九兵衛(印)ほか2人	加部金右衛門他3人	堅	1	17に同封、水帳絵図あり、 加部金右衛門他3人
29	大佛寺眞屋敷水帳之写	明暦元年5月28日	年寄安井九兵衛(印)	加部金右衛門他3人	堅	1	17に同封、水帳絵図あり
-①	永代志渡申屋敷之事	万治3年8月5日	売主安井九兵衛	野里屋四郎左衛門	状	1	29に挟み込み
-②	永代置俵家之事	明暦4年8月2日	安井九兵衛	竹屋長右衛門	状	1	29に挟み込み
30	道頓堀川明屋敷鈴木三郎九郎殿へ通申帳	寛永8年4月14日			堅	1	17に同封
31	何之町三丁目水帳之写	明暦元年5月28日	未町寺丁目年寄河屋右衛門ほか2人	加部金右衛門他3人	堅	1	17に同封
32	乍平口上(水帳絵図張替したきに付き)	(天保6年)末4月晦日	未年番道頓堀九郎右衛門町年寄淡路屋九兵衛(印)	安井九兵衛	状貼繼	1	
33	寛(水帳絵図張替したきに付き)	(天保6年)末2月晦日	未年番道頓堀九郎右衛門町年寄淡路屋九兵衛(印)	安井九兵衛	状貼繼	1	
34	口上(水帳絵図張替したきに付き)	(天保6年)末6月晦日	未年番道頓堀九郎右衛門町年寄淡路屋九兵衛(印)	安井九兵衛	状貼繼	1	
35	寛(水帳絵図張替したきに付き)	(天保6年)末9月晦日	未年番道頓堀九郎右衛門町年寄淡路屋九兵衛(印)	安井九兵衛	状貼繼	1	
36	寛(水帳絵図張替したきに付き)	(天保6年)末5月晦日	未年番道頓堀御前町年寄森田屋新助(印)	安井九兵衛	状貼繼	1	
37	寛(水帳絵図張替したきに付き)	(天保6年)末10月晦日	未年番道頓堀九郎右衛門町年寄淡路屋九兵衛(印)	安井九兵衛	状貼繼	1	
38	寛(水帳絵図張替したきに付き)	(天保5年)午5月晦日	午年番道頓堀御前町年寄森田屋新助(印)	安井九兵衛	状貼繼	1	
39	寛(水帳絵図張替したきに付き)	(天保5年)午正月29日	午年番道頓堀御前町年寄森田屋新助(印)	安井九兵衛	状貼繼	1	
40	寛(水帳絵図張替したきに付き)	(天保5年)午11月晦日	午年番道頓堀御前町年寄森田屋新助(印)	安井九兵衛	状	1	
41	寛(水帳絵図張替したきに付き)	(天保5年)午9月晦日	午年番道頓堀御前町年寄森田屋新助(印)	安井九兵衛	状貼繼	1	
42	寛(水帳絵図張替したきに付き)	(天保5年)午10月晦日	午年番道頓堀御前町年寄森田屋新助(印)	安井九兵衛	状	1	

No.	表題	年代	差出人	宛名	形態	個数	備考
43	寛水帳絵図張替したきに付き	(天保4年)巳4月晦日	巳年番道頓堀吉左衛門町年寄大和屋兵右衛門(印)	安井九兵衛	状貼繼	1	
44	寛水帳絵図張替したきに付き	(天保4年)巳9月晦日	巳年番道頓堀吉左衛門町年寄大和屋兵右衛門(印)	安井九兵衛	状貼繼	1	
45	寛水帳絵図張替したきに付き	(天保4年)巳8月晦日	巳年番道頓堀吉左衛門町年寄大和屋兵右衛門(印)	安井九兵衛	状貼繼	1	
46	寛水帳絵図張替したきに付き	(天保6年)未3月晦日	未年番道頓堀九郎右衛門町年寄淡路屋九兵衛(印)	安井九兵衛	状	1	
47	寛水帳絵図張替したきに付き	(天保4年)巳11月晦日	午年番道頓堀御前町年寄森田屋新助(印)	安井九兵衛	状貼繼	1	
48	寛水帳絵図張替したきに付き	(天保7年)申正月29日	申年番道頓堀宗右衛門町年寄丹波屋幾兵衛(印)	安井九兵衛	状貼繼	1	
49	寛水帳絵図張替したきに付き	(天保7年)申4月晦日	申年番道頓堀宗右衛門町年寄丹波屋幾兵衛(印)	安井九兵衛	状貼繼	1	
50	道頓堀芝居名代并座本惣元帳	享保20年	安井九兵衛		摺	1	
51	摂州西成郡安井九兵衛・大和屋吉次郎請所明細帳	天明8年8月	安井九兵衛・大和屋吉次郎請所支配人伊右衛門印		摺	1	
52	乍恐以書付申上候口上寛	巳9月	安井九兵衛請所支配人六兵衛	大原吉左衛門役所	絵図	1	
53	書状(年貢祝儀の礼)	正月19日	(前田)利常(印)	安井道下	状	1	
54	(御所周辺絵図)	天保8年2月	清水殿御蔵板		絵図	1	「健治所蔵物」の付箋
55	寛水帳絵図張替したきに付き	(天保4年)巳6月晦日	巳年番道頓堀吉左衛門町年寄大和屋兵右衛門(印)	安井九兵衛	状貼繼	1	
56	寛水帳絵図張替したきに付き	(天保4年)巳5月晦日	巳年番道頓堀吉左衛門町年寄大和屋兵右衛門(印)	安井九兵衛	状	1	
57	乍懼口上(水帳絵図張替したきに付き)	(天保4年)巳3月晦日	巳年番道頓堀吉左衛門町年寄大和屋兵右衛門(印)	安井九兵衛	状	1	前次か
58	(公儀年貢請取代官に渡すに付一札)	寛文7年12月27日	安井九兵衛	岩田屋治兵衛(ほか)	状	1	九兵衛裏書あり
59	道頓堀奉町絵図	延宝7年12月7日	年寄米屋弥三兵衛(印)ほか3人		状	1	水帳添付のもの、平野次郎兵衛・安井九兵衛連署
60	道頓堀川大絵図	明暦元年5月28日	平野徳寿・安井道下印判		絵図	1	袋(「道頓堀古大絵図」大坂府南区役所)とあり
61	(道頓堀川沿い町屋敷図面)				絵図	1	500の下書?
62	(道頓堀川沿い町屋敷図面)				絵図	1	菊屋町・新戎町・平野徳寿町
63-1	(南菊屋町絵図)				絵図	1	
63-2	道頓堀新戎町絵図				絵図	1	
63-3	(平野徳寿町絵図)				絵図	1	
64	(道頓堀川沿い町屋敷図面)				絵図	1	
65	(道頓堀川沿い町屋敷図面)				絵図	1	大宝寺裏屋敷
66	(道頓堀川沿い町屋敷図面)	寛文11年10月15日	南間屋町年寄薄屋喜兵衛(ほか2人)		絵図	1	大法寺裏屋敷・南間町の水帳絵図
67	(道頓堀川沿い町屋敷図面)	辰10月21日	安井九兵衛・平野次郎兵衛		絵図	1	500の下書?
68	(東堤きわ絵図)				絵図	1	
69	(西方絵図)				絵図	1	
70	書状(見舞の礼)	11月2日	(前田)綱利(印)	安井九兵衛	状	1	
71	書状(年賀の礼)	正月18日	(前田)綱利(印)	安井九兵衛	状	1	
72	書状(年賀の礼)	正月17日	(前田)綱利(印)	安井九兵衛	状	1	
73	書状(年賀の礼)	正月16日	(前田)綱利(印)	安井九兵衛	状	1	
74	書状(行事見舞の礼)	3月8日	(前田)綱利(印)	安井九兵衛	状	1	
75	書状(縁取り祝儀の礼)	7月28日	(前田)綱利(印)	安井九兵衛	状	1	
76	書状(見舞の礼)	12月13日	本安房政長(花押)	安井九兵衛	状	1	
77	書状(年賀の礼)	正月17日	(前田)綱利(印)	安井九兵衛	状	1	
78	書状(年賀の礼)	正月18日	(前田)綱利(印)	安井九兵衛	状	1	
79	書状(年賀の礼)	正月15日	(前田)綱利(印)	安井九兵衛	状	1	
80	書状(年賀の礼)	正月25日	(前田)綱利(印)	安井九兵衛	状	1	
81	寛(道頓堀墓所図面)	貞享2年11月21日	安井九兵衛印・下灘源村庄屋半三郎印	奉行	絵図	1	包紙あり
82	従 御公儀様被下候上荷船六拾五艘茶船四拾五艘合百拾艘五人中間二而作り申候入用並三郷中間之上荷六艘茶船三艘入用に割出候銀並私之寄帳	延宝2年5月・6月	安井九兵衛(印)ほか4人		摺	1	
83	道頓堀江曹根崎安治川芝居主名代大夫本座本芝居屋敷持主名寄帳	延享3年8月			摺	1	

No.	表題	年代	差出人	宛名	形態	個数	備考
84	大坂天満町中先年御年賣地二而御座候所地子銀御赦免無年賣地二被仰付候様子書付差上ケ候地	貞享4年3月24日	南組惣年寄安井九兵衛	奉行	状	1	
85	奉願上(鎮護の札受けたぎに付)	安永6年10月	岡木中務	本所役人中	状	1	願主安井九兵衛
86	(神々名号書き上げ)				状	1	
87	鎮座靈符秘挂				状	1	
88	口上之覚(先相が感状・褒美等受け取つた者は申し出よとの触れ)	子2月3日	肥前・主馬	三郷惣年寄中	状	1	
89	大坂御普請之刻加賀中納言様より被下候御状之写				状	1	
90	芝居主并名代之境	元文5年3月	安井九兵衛		豎	1	袋(安永二年十一月)あり
91	芝居無銭二而見物差入申間敷旨被 仰渡在之候二付当家由緒之取返しの候之様致なし候儀在之候故芝居主より一札取置候一件之留	安永2年11月	芝居主大和屋嘉右衛門印ほか8人		豎	1	90と同封
-①	(書状)	2月14日	亀谷桑之丞	川中要輔	状	1	91に挟み込み
92	諸芝居止り申覚	延宝8年6月			状	1	90と同封
93	寛京都狂言尽大夫永停止の経緯につき)	原勘5月21日	狂言尽大坂住宅役者共		状	1	90と同封
94	(歌舞伎にかかわる争論に付き)	(延宝2年10月)			状	1	90と同封
95	乍彈口上(芝居様敷入用の使に過言するに付き詫び状)	安永9年3月	座本芳沢いろは(印)、芝居主大和屋嘉右衛門(印)	安井九兵衛	状	1	90と同封
96	一札(安井氏の芝居様敷にかかわる由緒に付き)	安永2年12月	芝居主大和屋嘉右衛門(印)ほか8人	安井九兵衛	状	1	90と同封
97	一札(安井氏の芝居様敷にかかわる由緒に付き)	安永9年4月	芝居主大和屋嘉右衛門(印)ほか6人	安井九兵衛	状	1	90と同封
98	一札(安井氏の芝居様敷にかかわる由緒に付き)	天保13年6月	芝居失倉主柳屋五兵衛(印)ほか4人	安井廉一郎	状	1	90と同封、包紙あり
99	寛(歌舞伎・あやつり芝居等変遷に付き)				状	1	90と同封、付箋あり
100	預り申銀子之事	宝暦11年4月	亀屋肥後・津国屋勘兵衛	福嶋屋長兵衛	状	1	90と同封、付箋あり
101	預り申銀子之事	宝暦11年9月	竹田近江(印)ほか2人	福嶋屋長兵衛	状	1	90と同封、付箋あり
102	預り申銀子之事	宝暦11年5月	竹田近江(印)ほか2人	大須賀屋長兵衛	状	1	90と同封、付箋あり
103	預り申銀子之事	宝暦11年2月	栗本実川荒丸(印)	福嶋屋長兵衛	状	1	90と同封、包紙あり
104	乍恐口上(道頓堀筑後芝居これまで在り来る狂言書上)	慶応3年4月28日		安井	状	1	90と同封
105	自費勘型証書写 従番号至五号	(近代)			豎	1	新紙
106	道頓堀ノ北裏町九兵衛 次郎兵衛町屋敷御換地帳	元和7年9月22日	井上藤左衛門ほか3人		豎	1	袋あり
107	道頓堀南輪屋敷水帳(通屋敷)	慶安4年12月13日	安井道卜	大須賀屋左衛門他3人	豎	1	106と同封
108	道頓堀久左衛門丁水帳之写	寛文2年5月21日	年寄油屋九郎右衛門(印)	大須賀屋左衛門他3人	豎	1	106と同封、平野次郎兵衛 安井九兵衛奥印
109	道頓堀北輪新我町水帳	慶安4年12月13日	安井道卜	大須賀屋左衛門他3人	豎	1	106と同封
110	道頓堀北輪新屋敷水帳(平野徳寿町)	慶安4年12月13日	平野徳寿判	大須賀屋左衛門他3人	豎	1	106と同封
111	(道頓堀久左衛門町水帳絵図)	寛文2年5月21日	年寄油屋九郎右衛門(印)		状	1	106と同封、平野次郎兵衛 安井九兵衛奥印
112	(御所指図)				絵図	1	
113	書状(火事見舞の札)	3月8日	(前田)綱利(印)	安井道卜、安井九兵衛	状	1	
114	(六角堂参詣等に付き書状)				状	1	
115	書状(年賀の札)	正月13日	(前田)綱利(印)	安井九兵衛	状	1	
116	指上ケ申一札之事(道頓堀川町屋敷お蔵入りのため家建て	寛永17年11月21日	道頓堀年寄惣左衛門(印)、屋敷主彦兵衛(印)	工藤次郎右衛門他1名	状	1	
117	指上ケ申一札之事(道頓堀川町屋敷お蔵入りのため家建て	寛永17年11月24日	家主善右衛門(印)	工藤次郎右衛門他1名	状	1	
118	指上ケ申一札之事(道頓堀川町屋敷お蔵入りのため家建て	寛永17年11月21日	家主七兵衛(花押)	工藤次郎右衛門他1名	状	1	
119	指上ケ申一札之事(道頓堀川町屋敷お蔵入りのため家建て	寛永17年11月21日	家主長吉(印)	工藤次郎右衛門他1名	状	1	
120	指上ケ申一札之事(道頓堀川町屋敷お蔵入りのため家建て	寛永17年11月24日	道頓堀川南輪年寄宗左衛門(印)ほか1人	工藤次郎右衛門他1名	状	1	

No.	表題	年代	差出人	宛名	形態	個数	備考
120	指上ノ申一札之事(道頓堀川町屋敷お蔵入りのため家建て る二付き)	寛永17年11月21日	家主久兵衛(印)	工藤次郎右衛門他1名	状	1	
121	寛(竹屋町分半町水通入用割に付き)	万治3年9月4日	水野越前守忠邦(花押)ほか3人	萩原二位	状	1	印あり
122	書状(改年の慶賀等に付)	8月27日			状	1	
123	撰津国難波図	文政9年写	廣澤芦舟		絵図	1	宝暦4年「撰津次田員矩図」
124	撰津国難波津図	12月14日	なんは孫兵衛		絵図	1	
125	書出し(銀子皆済に付)	寛永5年3月3日	道頓堀丁代五郎右衛門(印)	安井九兵衛	状	1	
126	一札之事(銀子受取に付)			安井九兵衛	状	1	
127	(漢詩カ)	6月29日	信平	眞英先生	状	1	
128	書状	天保6年5月晦日	末年番九郎右衛門町年寄淡路屋九兵衛(印)	安井九兵衛	状	1	袋「毎月川」町絵図水帳張紙届書入あり
129	寛(水帳絵図張替したきに付き)	天保6年7月晦日	末年番九郎右衛門町年寄淡路屋九兵衛(印)	安井九兵衛	状貼纏	1	130と同封
130	寛(水帳絵図張替したきに付き)	寛永5年3月4日	足利義昭	遊佐河内守	卷子	1	
131	書状	天保4年10月朔日	道頓堀奏町年寄津国屋九兵衛(印)	年番吉左衛門町年寄大和屋兵右衛門	状	1	
132	寛(水帳絵図張替したきに付き)				状	1	
133	三太蔵より東南之分田地寛	辰暦11月晦日	辰年番道頓堀家町年寄津国屋九兵衛(印)	安井九兵衛	状	1	
134	寛(水帳張替一切なきに付き)	明治25年7月20日	東京萬文堂		冊子	1	和歌・俳句の本
135	みやびのちからくらへ 第19号	明治25年2月19日	東京萬文堂		冊子	1	和歌・俳句の本
136	みやびのちからくらへ 第14号	寛文5年7月19日	家屋敷安井九兵衛ほか2人	綱吹屋仁兵衛	状	1	桶屋敷町
137	永代志渡申家屋敷之事	明治33年10月	会主 十世安井算英ほか1人		状	1	活版刷
138	(七段昇進披露田舎開催案内)	享保9年10月	道頓堀立慶町座本蔵三右衛門病氣に付代判手代善七印ほか18人	三郷惣年寄中	状	1	
139	(漢詩)	元和4年9月28日	平野彦兵衛ほか3人	えひす嶋道益他1人	状	1	
140	芝居顔見世之義夜之内二初申度旨願候而被 仰付候一 件留	明治30年5月	会主 田村保寿	御奉行	状	1	活版刷
141	えひす嶋町屋敷遺候事	寛文6年10月21日	安井九兵衛(印)・平野次郎兵衛(印)		状	1	活版刷、中之島森吉楼
142	(五段昇進披露田舎開催案内)	明治34年6月	会主 高橋梓三郎		状	1	「安井健治」の付箋貼付
143	生恐し書付申上候(拝領の土地に家建てたきに付)	元禄12年1月19日			堅	1	形色
144	(大坂三郷絵図)	(近世、18世紀初期カ)			堅	1	袋あり
145	道頓堀東横堀大和橋より新築涼東町並川流入用請私帳	元禄11年11月晦日	道頓堀大和町年寄樽井屋作兵衛(印)ほか21人		状	1	
146	書状	正月13日	(前田)綱利(印)	安井九兵衛	状	1	
147	(漢詩カ)		清洲逸史(印)		状	1	
148	仮目録	(近代)			状	1	鉛筆書き、古文書の整理目録
149	御大名衆蔵屋敷實地住宅之概名代之者より申出候書付	延享元年6月	安井九兵衛ほか2人		状	1	
150	〔書〕「博海氣概」	明治19年5月16日	松浦君正(印)		状	1	
151	日記手控	明治34年12月23日	施仙		堅	1	
152	明治三十五年曆之友	1月15日	村瀬秀甫	安井先生	冊子	1	
153	通知(組合総会開催に付)	明治35年4月27日	細長 田村善三郎		状	1	活版刷
154	寛(ぬし屋町他5ヶ町奉行所へ水帳持参に付)	9月12日			状	1	
155	永代志渡申家屋敷之事	貞享元年5月15日	家主家屋平兵衛(印)ほか5人	安井九兵衛	状	1	
156	永代志渡申家屋敷之事	貞享4年5月10日	家主主松やきち(印)ほか4人	安井九兵衛	状	1	
157	(書状新簡)				状	1	
158	請合申田地之事	延宝2年10月3日	かわらや吉兵衛(印)	安井九兵衛御内平兵衛	状	1	
159	一札(借地年貢支払い取決めに付)	延宝2年10月3日	かわらや吉兵衛(印)	安井九兵衛御内平兵衛	状	1	164と一緒に

No.	表題	年代	差出人	宛名	形態	個数	備考
165	(宅地図面)	延宝2年9月24日				1	164と一拵
166	請取申年貢銀之事	延宝2年10月15日	安井九兵衛手代甚右衛門	かわちや吉兵衛	状	1	164と一拵
167	請取申蔵屋敷年貢銀之事	延宝2年10月15日	安井九兵衛手代甚右衛門	かわちや吉兵衛	状	1	164と一拵
168	寛(久)宝寺村下百姓との争論に関する朱印状に付)	巳6月13日	安井九兵衛印	上原久右衛門他1人	状	1	袋
169	指上申手形之事(本人取り締まりに付)	慶安5年8月28日	道頓堀大和町安井九兵衛(印)ほか16人	南組年寄六人衆中 大和町分	状	1	169と一拵
170	石垣注文之覚	(寛文6年)午9月3日 (近世)	竹屋町ほか2ヶ町		状	1	169と一拵
171	寛(御堂筋宅地書き上げ)				状	1	169と一拵
172	(西)道頓堀南側宅地図面)	寛文7年閏2月5日			状	1	169と一拵
173	(慶長十七年久宝寺村換地帳写の断簡カ)		林又右衛門書判ほか2人		状	1	169と一拵
174	一札之事(田地借用二付)	貞享3年10月朔日	渡辺村岸部屋三右衛門(印)	安井九兵衛手代長兵衛	状	1	169と一拵、包紙あり
175	一札之事(田地借用二付)	貞享3年10月朔日	渡部村河内屋吉兵衛(印)	安井九兵衛手代長兵衛	状	1	169と一拵の中で174と一拵、付箋あり
176	寛(水)道普請人用割りに付)	貞享3年8月	九之助町一丁目ほか2ヶ町	町々衆中	状	1	169と一拵の中で174と一拵、付箋あり
177	寄合申相談之覚(借屋町伏騒の措置に付)	寛文6年8月11日	竹屋町年寄九郎右衛門ほか22人		状	1	169と一拵の中で174と一拵、付箋あり
178	(南間屋町表間口・裏行き一軒ごと書上)	寛文11年10月15日	南間屋町年寄はくや喜兵衛ほか2人	安井八郎右衛門ほか3名	状	1	169と一拵の中で174と一拵、付箋あり
179	一札之事(茶屋取り締まりに付)	寛文4年6月23日	道頓堀年寄山口屋惣右衛門ほか9人	南組惣年寄衆中	状	1	169と一拵の中で174と一拵
180	寛文四年辰六月二十二日我御向殿様へ罷出候刻御口之覚 (茶屋取り締まりに付)	寛文4年6月22日			状	1	169と一拵の中で174と一拵
181	寛(明け)事禁止の触承知につき)	承応2年1月8日	せに屋庄兵衛(印)ほか72人	安井道卜、安井九兵衛	状	1	181と一拵
182	寛(水)帳張替したきに付き)	(天保7)申9月2日	丹波屋幾兵衛	安井九兵衛	状貼纏	1	181と一拵
183	差上り申手形(関前手形二付き)	寛文3年11月4日	大坂町奉行所惣年寄安井九兵衛	奉行	状	1	181と一拵、裏面に彦坂守岐守の裏書(三宅半七郎他1人あて)
184	一札之事(道頓堀六津与町年寄仰せつけられるに付き)	寛文3年9月14日	水津与町年寄栗屋弥兵衛印		状	1	181と一拵
185	私親安井九兵衛道頓堀取立今組合之分支配仕来候由緒 書付之覚	寛文10年11月15日	南町惣年寄安井九兵衛		状	1	
186	私親安井九兵衛道頓堀取立今組合之分支配仕来候由緒 書付之覚	寛文10年11月15日	南町惣年寄安井九兵衛		状	1	185と一拵、後半に信長・秀吉等の書付写し、寛文10年古屋新十郎等へ上げる旨
187	私親安井九兵衛道頓堀取立今組合之分支配仕来候由緒 書付之覚	寛文10年11月15日	南町惣年寄安井九兵衛		状	1	185と一拵
188	我等所持仕候家屋敷田地覚	寛文7年10月13日	大坂町惣年寄安井九兵衛(印)	奥村因幡様御内御八姓 中衆	状	1	
189	私親安井九兵衛道頓堀取立今組合之分支配仕来候由緒 書付之覚	貞享3年7月11日	南町惣年寄安井九兵衛印	奉行	状	1	188と一拵、袋「川村随賢安治川堂島川之堀支配 止子後中嶋堂島築地建屋場見積書類四通」あり
190	寛(大阪町の内、明屋敷所持の由緒に付き)	元禄11年11月	安井九兵衛印、平野次郎兵衛印	住吉屋藤左衛門	状	1	188と一拵
191	(九)兵衛に貸し渡した金子返済依頼に付き書状)	2月9日	天王寺屋四郎兵衛	てんのうじや四郎兵衛	状	1	188と一拵
192	(九)兵衛に貸し渡した金子返済依頼に付き一札)	正保3年7月12日	日本はし角右衛門(印)	安井九兵衛	状	1	188と一拵
193	(徳川院二十五年忌につき書状)	2月26日	山口弥五兵衛	安井九兵衛	状	1	188と一拵
194	請取申銀子之覚	正保3年12月27日	天王寺屋四郎兵衛	角右衛門	状	1	188と一拵
195	請取申銀子之覚	延宝8年9月22日	今宮屋吉右衛門	安井九兵衛	状	1	188と一拵
196	請取申金子之事	延宝9年6月9日	てん王寺屋九郎兵衛(印)ほか1人	いつみ屋三郎兵衛他1人	状	1	188と一拵、包紙あり
197	(又)兵衛持参書状拜見に付き書状)	12月27日			状	1	188と一拵
198	請取申金子之事	延宝9年6月11日	和泉屋三郎兵衛(印)、樽井屋作兵衛(印)	安井九兵衛	状	1	188と一拵
199	寛(十三屋番左衛門出い方)	巳3月12日			状	1	
200	かり申す銀子之事	卯11月12日	安井九兵衛(印)	天王寺屋了作老	状	1	
201	請合申田地之事	寛文4年3月9日	下郷波与右衛門(印)	安井九兵衛	状	1	
202	請合申田畠之事	延宝6年10月10日	作人下郷波村弥右衛門ほか1人	安井九兵衛	状	1	包紙有「道頓堀南側田地之手形」

No.	表題	年代	差出人	宛名	形態	個数	備考
203	請合申田畠之事	延宝6年10月10日	作人道頓堀徳壽町米屋次郎兵衛	安井九兵衛	状	1	202と一括
204	道頓堀南側丑寅酉年より禁中様御用木場二相渡り候を当辰十一月地主方へ御戻し被成候覺	延宝4年12月20日	平野次郎兵衛印判・安井九兵衛印判	代官	状	1	202と一括、付箋あり
205	左忍以書付申上候(道頓堀南側所持の明屋敷賞したぎに付き)	延宝2年6月21日	安井九兵衛印	奉行	状	1	202と一括、付箋あり
206	左陣書付を以申上候(道頓堀南側所持の明屋敷賞したぎに付き)	延宝5年5月14日	安井九兵衛印	奉行	状	1	202と一括、付箋あり
207	左忍以書付申上候(道頓堀南側所持の明屋敷賞したぎに付き)	寛文11年10月3日	安井九兵衛	奉行	状	1	202と一括、付箋あり
208	寛(道頓堀南側所持の明屋敷の由緒に付き)	寛文6年8月21日	安井九兵衛	奉行	状	1	202と一括、付箋あり
209	寛(塩碇場召上げられる二付き)	寛文10年9月15日	安井九兵衛	奉行	状	1	202と一括
210	左陣書付を以申上候(道頓堀南側所持の明屋敷賞したぎに付き)	寛文7年8月17日	安井九兵衛	奉行	状	1	202と一括、付箋あり
211	寛(道頓堀南側所持の明屋敷賞したぎに付き)	寛文7年8月17日	安井九兵衛	奉行	状	1	202と一括、付箋あり
212	(明屋敷江戸にて望む者あるため訴訟もやむなきに付き書状)	4月20日	平野次郎兵衛花押	安井九兵衛	状	1	202と一括
213	左忍以書付申上候(道頓堀南側所持の明屋敷に借家建てたぎに付き)	寛文6年10月21日	平野次郎兵衛・安井九兵衛	奉行	状	1	202と一括
214	請合申田畠之事	延宝6年10月10日	作人道頓堀木津佐町利右衛門(印)ほか1人	安井九兵衛	状	1	202と一括
215	請合申田地之事	延宝6年10月10日	作人渡辺村又左衛門(印)	安井九兵衛御内長兵衛	状	1	202と一括
216	請合申年貢銀之事	延宝6年10月10日	岸部屋三右衛門(印)	安井九兵衛御内長兵衛	状	1	202と一括
217	左陣書付を以申上候(道頓堀南側所持の明屋敷賞したぎに付き)	寛文11年6月4日	安井九兵衛	奉行	状	1	202と一括、付箋あり
218	大坂天満町中先年御年貢地二而御座候地子銀御赦免無年貢地二被仰付候様子書付差上候覺	貞享4年3月24日	南町惣年寄安井九兵衛印	奉行	状	1	包紙有「四通」大坂府南区役所」
219	此度所々川端町屋敷二可被仰付所私二様子見分仕候様二て御意二付ひそかに罷越様子見届候積之覺	貞享4年3月24日	南町惣年寄安井九兵衛	奉行	状	1	218と一括
220	寛(天満町中無年貢地にすなき理由に付き)	貞享4年3月25日	安井九兵衛	三宅三郎右衛門	状	1	218と一括
221	寛(三宅三郎右衛門の内意などに付き)	(貞享4年3月)			状	1	218と一括
222	私親安井九兵衛道頓堀取立申候様子井川中之屋敷先年従御公儀様被下候時分屋敷支配之仕様御尋二付書付差上候覺	貞享4年3月24日	南組惣年寄安井九兵衛印判	奉行	状	1	
223	(材木置場替え地下賜のいさぎづくに付き)	(元禄11年9月)			状	1	222と一括
224	願文(道頓堀川築地新築支障ある二付き)	安永7年8月23日	安井九兵衛・同靈限院		状	1	222と一括
225	願文(道頓堀川築地新築支障ある二付き)	安永7年9月	安井九兵衛・同靈限院		状	1	222と一括
226	(道頓堀川築地新築支障ある二付き)	安永9年3月21日	安井九兵衛・同靈限院		状	1	222と一括
227	願書(道頓堀川築地新築支障ある二付き)	安永7年閏7月吉日	安井靈限院・安井九兵衛		状	1	222と一括
228	(道頓堀川築地新築支障ある二付き)	安永8年4月1日	安井靈限院・安井九兵衛		状	1	222と一括
229	(道頓堀川築地新築取りやめの札二付き一札)	安永9年1月28日	安井九兵衛・同靈限院		状	1	222と一括
230	午年町地御年貢請取事	午12月23日	水野与三右衛門ほか1人	平野次郎兵衛・安井九兵衛	状	1	222と一括
231	一札之事(道頓堀南側の田地借用に付き)	寛文12年10月15日	河内屋吉兵衛(印)	安井九兵衛御内六兵衛他1人	状	1	付箋あり
232	請合申田地之事	寛文12年10月15日	難波村弥右衛門(印)	安井九兵衛御内六兵衛他1人	状	1	231と一括
233	請合申田地之事	寛文12年10月15日	河内屋吉兵衛(印)	安井九兵衛御内六兵衛他1人	状	1	231と一括
234	寛(道頓堀南側口永等書き上げ)				状	1	

No.	表題	年代	差出人	宛名	形態	個数	備考
235	丑年御年貢銀納事	寛文1年	新井助左衛門(印)ほか1人	平野次郎兵衛、安井九兵衛	状	1	234七一括
236	請取寛(当年作徳に付き)	丑年12月29日	平野彦左衛門	安井九兵衛御内六兵衛 他1人	状	1	234七一括
237	(当座受取寛に付き一札)	12月29日	平野彦左衛門		状	1	234七一括
238	寛(所持の材木置場渡すに付き)	(延宝4年)			状	1	
239	寛(道頓堀南側の間敷等に付き)	寛文5年3月13日	安井九兵衛	嶋村孫助	状	1	
240	(浪速古図の袋)				袋	1	
241	難波上古図				絵図	1	
242	浪華図				絵図	1	仁徳帝ヨリ安閑帝マテ

* (印)とあるのは、実際に押印されていることを示す。()のないものは、写しに「印」などとして示されているもの。